

## 種々のモニタリングデータにもとづく予測

～先行現象検知による確率予測

第207回地震予知連絡会記者レク資料 2015年5月22日

東京学芸大学教育学部 鴨川仁

- 報告されている先行現象は、地震学・測地学的、地球化学的、地球電磁氣的と多種多様存在する。
- 地震の前の異常の研究のみならず、異常から地震がどの程度発生しているか(地震発生率)が得られていると、確率的地震発生予測が原理的に可能。
- 複数検知された先行現象が独立であればあるほど効果の高い予測ができる。
- 地震前に一時的に発生する「過渡型」の先行現象に対し、地震時まで以上変化が発生する「単調増加(減少)型」先行現象は因果性はつけやすいが、確率的予測には使いづらい。

## 確率的地震発生予測のための研究課題

- 異常出現率はそれなりに報告があるが、地震発生率の算出例は多くない。
- 機械的な先行現象確率予測のために、地震発生率未算出の先行現象事例についてさらに研究を行う必要がある。
- それぞれの先行現象の事象が独立か否かの問題は発生機構の理解に大きく依存するため時間をかけて議論を行う以外ないと考えられる。